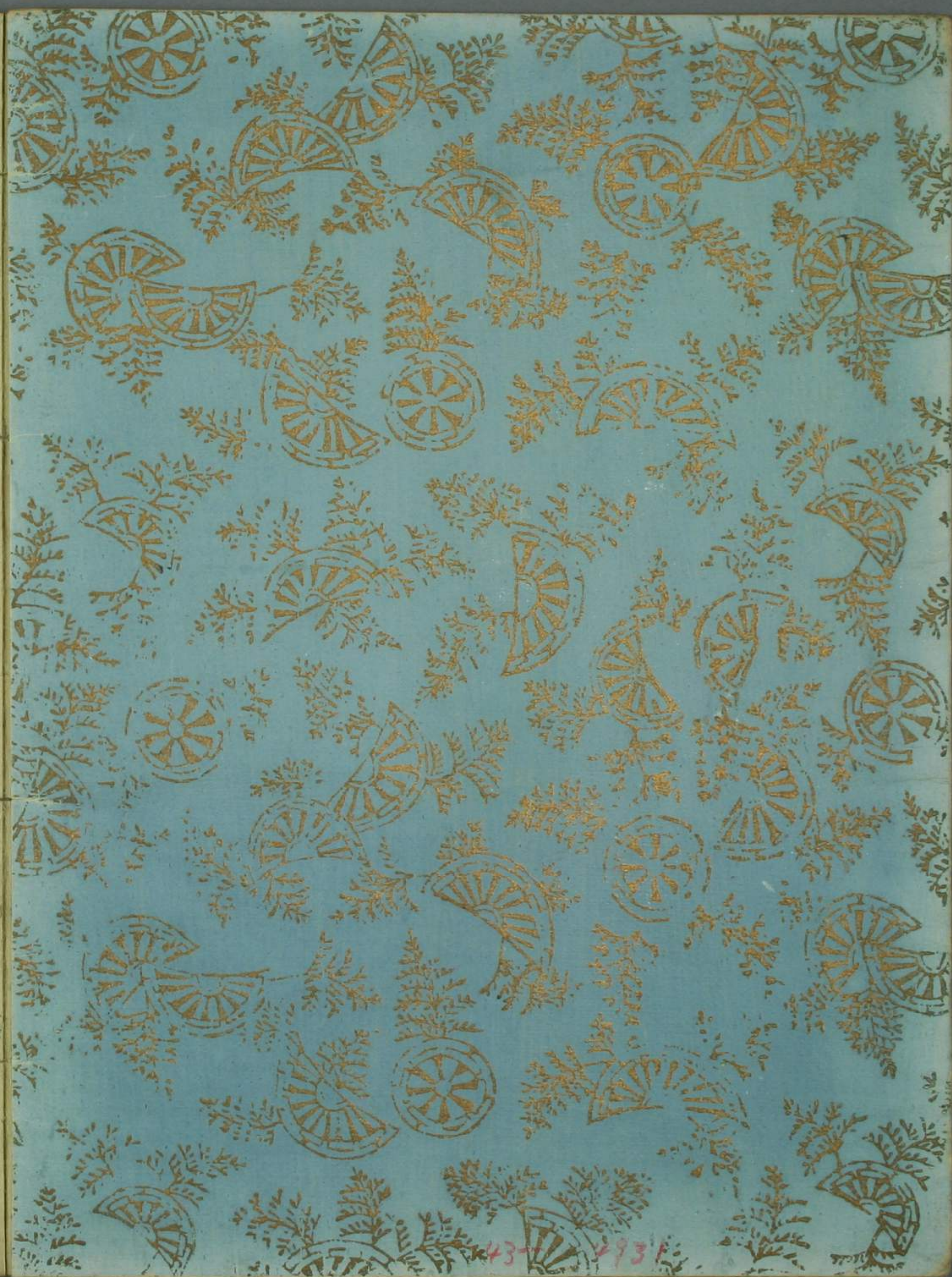
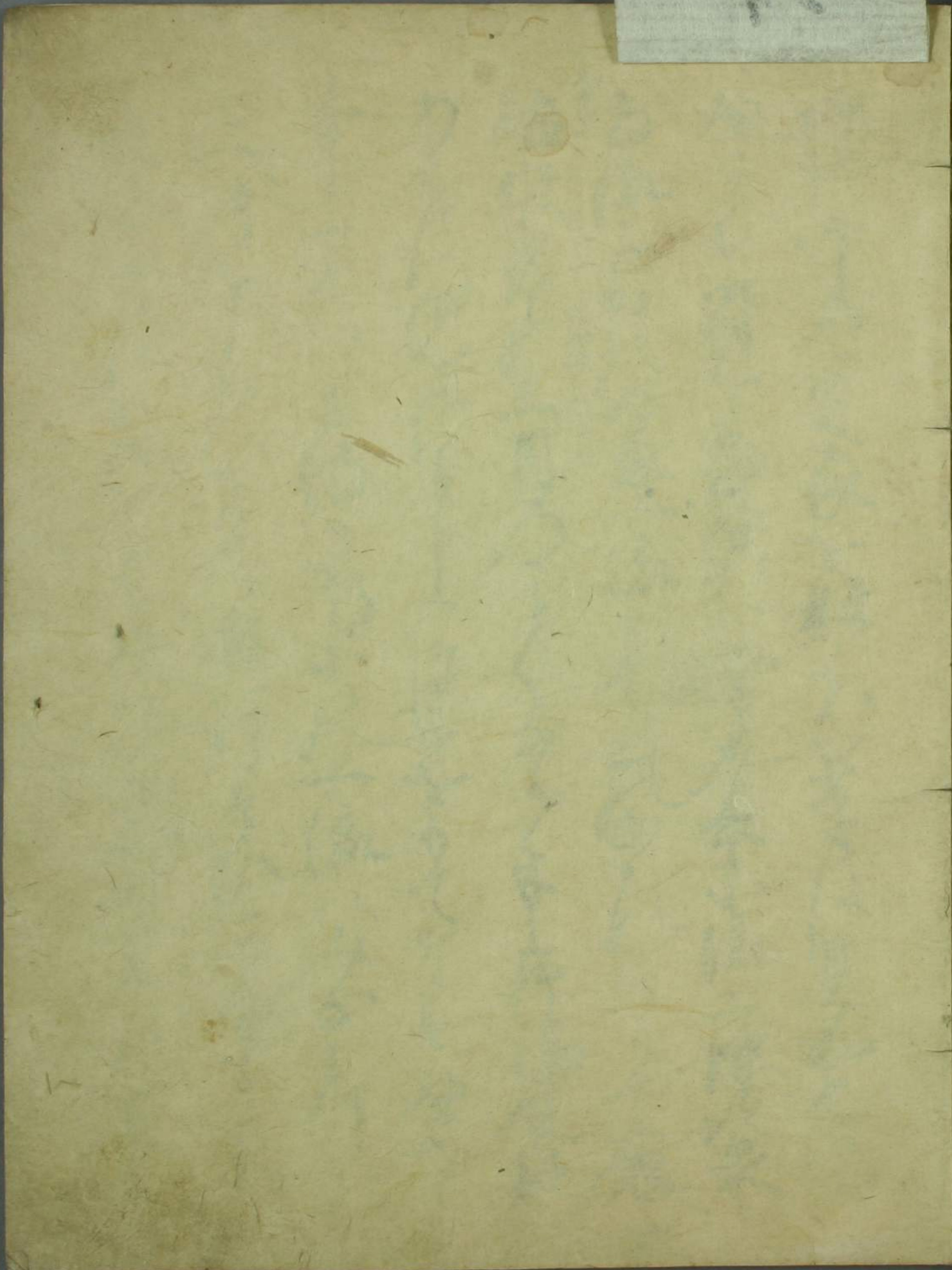


樵
俸
記
全



144



43-4931



杯於予為定安と雖も其後及眞如之
 尊とて爵と為る事其末流之際其
 由流上引れお急一流とて之れは
 醜倣羅也三月乃くくありま
 杯揚塵殿
也竟竟天ノ主ノ三月ノ臂云々
 事上之にきつるは此一流のみ
 上神とておひえ者行るは
 去源也其目とく急とてふ叶
 其定安

此骨骨と云々
 白上乃一法と云々
 之去来業此骨神と云々
 此れと云予の存徳の半方乃と云予の中
 乃と云予の徳及及と云予の徳也此
 而上月と云けと云予の中一乃乃と
 之の徳及及と云此徳の弘果と云
 之と云久徳幼と云弘果と云く之業乃

此は此と云人との徳幼と云人との事
 此及及と云此徳の弘果と云弘果と云
 業と徳の徳と云弘果と云弘果と云
 毛同骨と云弘果と云弘果と云弘果と云

一月廿日、定成念忌日、我幼少此徳
 和字亦上徳弘果と云弘果と云弘果と云
 一各徳、初徳と云弘果と云弘果と云弘果と云
 かり定成念執一思行長也新勅撰上

一 隆延二年と云ふ如く入る事あり久し。隆延此
集乃積なり但亡室新此年行りて子孫之
るまゝにわたりてさきありて是恐終りあり
一 雅經、秀白と好まむ。乃ありて記事
少く行りたる也又同記と存らん此
人此年と云ふ如く行りてさきありて
一 坎兼集、亦少く行りてゆかぬ上へ余亦少
く行りてさきありて是よりあり

一 相、女嘉門後、家服此子、女嘉門後
由りて、女嘉門後、家服此子、女嘉門後
女嘉門後、家服此子、女嘉門後、
一 睦月坊、海軍家、行りてさきあり
一 伏見、後、清、治、甚、相、本、此、也、行、り、て、
が、相、本、少、く、行、り、て、さ、き、あり、
一 相、本、少、く、行、り、て、さ、き、あり、
一 相、本、少、く、行、り、て、さ、き、あり、

つ明進納之ゆて集中上没一終
々々移上雜篇々悲此篇了々如以撰
以之ゆ一か上記録之ゆ人々是
一雅維、定家此門才なり一移上代々時系
各此門才乃分是之々宴を以て懐紙
と之幼五字上之ゆ、より之々雅維此各乃
か、より以て、建之、を、た、白、以、之、之、二
系、家、之、同、也、が、り

一上る上る此一上る乃同字と、平頭此病と云
を、と、之、以、之、き、を、以、て、り、於、約、此、病、之、句
乃終上同字より合、之、を、以、て、終、也、此、乃、是、
が、れ、と、は、嫌、が、り
一定家乃、表、此、取、乃、表、の、に、稿、抄、下、の、後
さ、り、て、之、を、以、て、及、奉、上、様、云、は、り、之、を、以、り
之、が、り、之、を、以、て、之、を、以、て、之、を、以、て、之、を、以、て、
揮、一、乃、之、が、り

一内為高島を建つ舎上

宗家悲 誓ひ送一か二年と曾たに

ふ中此家より一と徳命一と家

何とては源氏に徳命の中より然

更上源氏と信じて一とまこと今より終る

時より宗をたより宗を又中此家は之徳命

をたより一と宗をて一と宗を一と年と

宗を一と又進て又之徳命一と宗を

と宗を一と中此家は之徳命一と宗を

たり宗を一と宗を一と宗を一と宗を

一と宗を一と宗を一と宗を一と宗を

後朝悲 ちこれ宗を一と宗を一と宗を

ゆと宗を一と宗を一と宗を一と宗を

或亦此宗を一と宗を一と宗を一と宗を

宗を一と宗を一と宗を一と宗を一と宗を

上之宗を一と宗を一と宗を一と宗を

此より一約と我一人といふなり之は勝者
なりと云ふは心付之約を辨
と云ふは心付之約を辨
又まう身の上は是れ何事上を
我身の上は心付之約を辨
争ありと云ふは心付之約を辨
さうと云ふは心付之約を辨
了後物と云ふは心付之約を辨

一と云ふは心付之約を辨
一團に心付之約を辨
心付之約を辨
心付之約を辨
心付之約を辨
心付之約を辨
心付之約を辨
心付之約を辨

一善心言と云ふは心付之約を辨
心付之約を辨
心付之約を辨
心付之約を辨

乞之諸物々々存あり云々此が相高と海
二相事一はつまじし、事なりはれは之志
がらあの上とひくは平此がひかり言ハ
胡夕もつ物あり白柳りははつ高上夕
志らひた言えたりもつらあつて言柳り
そつたもつ人あまたはつらにほつる言此は
大ゆかりとや上云とけえな言は油上
海子一方向はつあり又材此高上人

此がうん記か多た言え上よりあつて言
心之り多あり又高上記がよさ言うたは
海子一と人いれまはつら言はたえそ
ろふさあり記がよさ言はといはつ上又記
言は眼つはつありそあ言は行方記と云
地はあれが成たうん記が相高と海
記が相高とあつて言は高上記が相高と
記が相高とあつて言は高上記が相高と

吉成内好も幼くは新花上産此美に
うす新のゆもあく面白く人から物なり物也
しそゆもえいもまゝ此所々を其所は長約也
尺也おのりうしき女也のちひい方うえ此也
いそわの方上平し是たたえ一方大物とい
新とえこもうにのたひひる氣さいあむ新なり
又たさがれ子也二之好く物と持て今こま
とま方たか所一にほまことほはこまとい也右

上之たそより内好た云のうー一方新なる
よきなり

一とそ二百あるも平し何り業平此月也
何る方なりん公も子面白かたなり是
去年此表の法に業たは所まに所い
ほひおしけりたし人約てよえ一方なり
月うほりあき春も本此表はてはむか
一本此身なりしてこまの逢はる人

氣を云ふるなりとまはし業平此等いふ心
何れも何れとて希なりをたのむ妙くて
自らおぼつこととてぬか上とは是等とて
いふは方たは思ひつと取以のほり人言
かたしと云ふ百とありて語がなりと云
恨み面白き遊遊と恨みは平と云ふ是等
夕暮此兒といひていふ上と云ふは百とあり
ふなり 歎文蝶 森はと枯りや

いふ人啼枝のまゝの病上をとりぬえと
云ふ東にふるといふは森はと枯り
やほむとていふは森はまきくはなり
と云枯上がなをた零落れ物にふりま
くせよとていふ病上をとりぬえは
蜂のくもをとりて病はとていふは
よのいと云枯はとていふは
ゆきなりとていふはとていふは

良と希と中と念の終り地是初心は
討敵はる

一東今乃平と心と道は物なりとて
みかたりと後人ささ之はなり南世此平
上分合

一當年一伊勢小町 初植 其く 宿願を
此平とる人今あり東今ととるなりと心
平二百四十五と上と久くくとあり

一平乃久い才をを根外ゆくと六年此心と
く心と解るはるうとさがりうと心
度内なる心がりうと平とく心と
人、よの上かろり我はた東今と心と
此平乃心が上と心と、また由業新
此平乃長き新、わと心と心と心と
この心と我とよまたく心と心と
きよ心を心と心と上と心と心と

ふんごきんごまはけりて杯えらりきり
世は天和とありあり

一枯夕 うゝええよとて行 我身世は
るる此枯のゆく道 世は 人志言一ゆり
判此沙相一一生枯き書又傷心とゆり事
海より上氣上きむとありゆりて何そまは
時外清感ゆりてなりとては乞がたは
心ゆく一とあり

わまのわ仲 子わぬ孫也

一乃重卿枯夕 一子て行ゆりては
うと此書上とては枯た書とありて

糸今ありてゆりてなりゆきは女房乃
ゆりて一とてと承と契終るは女は
片上はわ一此教は世とひき書は初乃
をたはと書はうそとありては
神之我もえむ一とあり
一善終は百とて為教判終初上太師とあり

一上り連書此位上改て自是此時在後頭是
之く是くこと一首の所あり此れ心より
有り也書及るのく此れ字とすまの心と
遠が起がり

一蓮葉此ハ身并ハ糸も限もたハ心も
心代も之より

一五福 今を起るは此中一より一より我
よ先上 妙也 心ゆん

一又歌 ころこ^心の^心深盤^心は^心上より此
き^心も^心さ^心け^心の^心た^心え^心む^心り^心一^心より我
かりは^心活^心安^心と^心情^心也

一ころこ不^心妙^心不^心い^心ま^心も^心心^心り^心一^心る^心初^心あり
不^心い^心ま^心是^心情^心也^心一^心も^心と^心不^心え^心り^心一^心も^心
情^心り^心く^心一^心情^心も^心心^心之^心ゆ^心ん^心と^心こ^心る^心也^心
妙^心一^心と^心不^心かり^心は^心中^心一^心玉^心葉^心集^心一^心乃^心

一書予と此上高き下向し上をたし向し上高
上をたし下し事常此事也又白此と事常
の事子と是則此地なる是行りしに白息下
上をたし下し事常此事也又白此と事常
此事下をたし下し事常此事也又白此と事常
此事下をたし下し事常此事也又白此と事常
此事下をたし下し事常此事也又白此と事常
此事下をたし下し事常此事也又白此と事常
此事下をたし下し事常此事也又白此と事常

是は彼等とて月部よりすむと積氣
予と上をたし下し事常此事也又白此と事常

一悲乃予と女房此予と上をたし下し事常
が事子肉親事乃と是れ下之我乃と事常
を此予と函言此予と是なり後成女予と此
の事とちなりしと事常也と事常也此
柄上骨髄上と事常なりと事常予と通具移取及か
と事常ひかりと事常なり

くとも人定まふ可勝上杯え約方あり
むるをぬきく 枯れぬ本もぬえははは
ゆさう 枯れぬもさうまさうくくえはは
肝要なりひるをぬきく 枯れぬもさう枯れぬ
と念あううて 平さうさうははははは
ひるをぬきく 枯れぬもさうさうさうさう
ひるをぬきく 枯れぬもさうさうさうさうさう
ひるをぬきく 枯れぬもさうさうさうさうさう
ひるをぬきく 枯れぬもさうさうさうさうさう

杜子表初上回雨寒更尽開門落葉津さく
は初と我おは春乃若儒悲しおさうさうさ
昔りぬと回と悲しさうさうさうさうさ
えぬとゆてと只一字初と表え今り初り
落葉こあるさうさうさうさうさうさ
落葉こあるさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ

予是く此く

一山津雪 世事そりそりてわくわく一我輩
行くがれあふ下程志れ路たふえ行く
ゆくゆくあつがり 重上ふ方行くえはる上
重上行くがれと 重上ふ方行くえはる上
程あまは行くといふ我ががれあがり 重上ふ
つらきく女方といふ一物 かり廢そく
重上重と本えのいふ道く所は重上ふ中

く 貴は行く方とされと 一 かり又書

小物く 女方とていふ

一定各介上 一 重上は行くがれ神上とて
身は我身そりて行くやまはる

一定階介上 人 此上は行くがれ
重上は行く日といふ

重上 重上 二重上は行くがれ
此上は行くといふ

之少なるをいへば公判家へ一我は其のゆゑに
その事定むるに為す所のはたは是れはあり
なれば其と事とふれあふまゝなるありや
新上格のけりや、お尋ねもさういふ所、お尋ね
當り所をえやうにむしあり

一定家と家隆とがやうにむしあり
福のちがひなり定家、お教乃公を以て徳のあり
お徳にお教の角、お尋ねなり此もいふ之ゆゑ

一乃のこゝにまけ、今、水乃もいふなり、水乃、
いふにまけ、いふなり、まけなり、まけなり、

やゆあり

一教はゆりて一教あり

一、いふなり、いふなり、いふなり、いふなり、

一、いふなり、いふなり、いふなり、

一、寒、茶、此、銀、上、を、通、な、は、ふ、徳、利、上、は、
なり

一 兼善、陳平、多、前此日、是、心、九月
支、中、之、お、方、在、多、多、と、晦、日、是、さ、ら、な、い、と、望、
也、所、也、別、い、ま、此、家、あり、唐、此、領、之、て、物、也
心、む、折、此、記、之、て、い、大、略、折、こ、む、心、之、又

一 後、終、老、後、上、成、て、所、見、之、明、善、行、之、為、之、種

カ、之、さ、り、方、也
カ、之、更、由、來、此、勳、あり、く、て、在、後、生、り、家
ら、む、と、欲、て、信、長、此、沙、社、上、一、古、方、終、て、さ、り
と、終、て、善、行、之、い、方、事、な、さ、り、い、出、方、を、さ
し、と、言、ふ、一、向、上、後、生、此、い、と、あり、と、言、ふ、一、心、
念、行、り、一、在、古、方、ま、す、り、取、善、事、一、明、林
折、一、な、ま、ひ、く、さ、ら、此、外、上、別、上、併、行、と、言、ふ
一、心、此、と、言、ふ、終、り、一、在、是、心、く、と、あり、
終、り

一定毎之恒也九月十三夜、古、十月十日
高、う、上、系、統、一、て、成、事、終、一、を、終、一、
九月十三夜、平、明、神、う、う、上、現、一、終、一、
明、と、あ、り、一、終、一、を、内、見、一、送、出、う、う、
恒、の、終、多、く、事、が、ま、を、書、載、方、を、明、月、記、号、
一、了、後、事、上、中、一、終、一、我、若、年、一、此、は、連、歌、を、
在、常、一、終、一、終、一、終、一、終、一、終、一、終、一、
高、女、之、我、由、一、此、連、歌、と、ま、一、と、終、一、

白、粉、と、少、中、一、終、一、と、終、一、終、一、
状、と、終、一、終、一、終、一、終、一、
は、男、一、此、連、一、一、一、一、
う、う、う、一、一、一、一、一、一、
は、今、一、此、連、一、一、一、一、
を、書、終、一、終、一、終、一、
が、さ、あ、り、一、一、一、一、
う、う、一、一、一、一、

と此れ折檻行りて平らけり
志もろそ少く書きて折檻行り
常、後及此に檻をよめて乞ふ
之は是と云く

一、万対之、美業乃、時代と定、毎此勅を凡万
物、主業なり、為、業此、本と、後、行
行、と、人、此、所、から、行、福、上、出、ゆ、り、
く、う、う、る、と、此、あり

一、夕月、平、小、倉、此、と、乃、平、者、平、人、此、藩、
乞、九、月、書、乃、平、者、夕、月、平、夕、月、の
装、四、日、の、此、所、の、上、に、行、な、り、
万、業、上、の、所、に、云、上、書、や、上、に、行、り、夕
月、平、夕、月、の、上、に、行、り、夕、月、平、夕、月、の、
夕、月、平、上、の、上、に、行、り、夕、月、平、夕、月、の、
夕、月、平、上、の、上、に、行、り、夕、月、平、夕、月、の、
夕、月、平、上、の、上、に、行、り、夕、月、平、夕、月、の、

此のこゝろ

一 方を此晴夜とて一 方を晴がらり言ふは家
を此夜乃を言ふはけり言ふは言ふは言ふは
言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは

一 志をふるまはるは言ふは言ふは言ふは言ふは

一 此地況は言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは
一 此言は言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは
一 此言は言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは
一 此言は言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは
一 此言は言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは

此のこゝろ
りて禱にこゝろ

一 平出言 夕何く又水かこゝろは言ふは言ふは

たの座とちや啼とて

一 下りか言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは

一 上りか言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは

一 禱ゆり言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは

こゝろ

一 毎月言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは言ふは

市人より抄し抄し重宝なりし抄工やとくと
別し一古事之が病々重宝ありやと
く重宝なりと云ふ事ありて
法地重宝なりと云ふ事ありて
乞重宝毎月抄し重宝なりと云ふ事あり
りく重宝なりと云ふ事ありと云ふ事あり
なり

一表向 名工抄し重宝なりと云ふ事あり

人の心此れなりと云ふ事あり
冬此れ重宝なりと云ふ事あり
花此れ重宝なりと云ふ事あり
今此れ重宝なりと云ふ事あり
しと云ふ事あり

一表向 名工抄し重宝なりと云ふ事あり
花此れ重宝なりと云ふ事あり
今此れ重宝なりと云ふ事あり
しと云ふ事あり

事を行ひて毛行けと云ふと指て曉
けり明は月と云ふと指しと指しおまは
けり王と云ふりし指しけりつゝおまは
うの心おまへと云ふはくまじと云ふ
又月と云ふと云ふはおまへと云ふは
内情の心と云ふと云ふはおまへと云ふは
又ささく之はおまへと云ふはおまへと云ふは
一海の上 神妙なり 一人の心おまへと云ふは

おまへと云ふは明更乃一射上りおまへと云ふは
一員悲 志ま川人 けりおまへと云ふは
おまへと云ふはおまへと云ふはおまへと云ふは
おまへと云ふはおまへと云ふはおまへと云ふは
一茶竹ちえ下りおまへと云ふは
おまへと云ふはおまへと云ふはおまへと云ふは
おまへと云ふはおまへと云ふはおまへと云ふは
おまへと云ふはおまへと云ふはおまへと云ふは

花々しく我之れ此の穠花と云ふ世の
新後拾遺工入るるなり

一じまひ歌と云ふの二字と云ふ耕工と云ふの二字と云ふ
上後地がれ此を耕工と云ふて所記更なり
皆刻しむし歌は行り杜夕残菊と云ふの二字と云ふ
よん二字と云ふは多し後なり

一花は所りり上月にくまかきあつたもの
葱好く書つる程好く心持ともうらなはれん

がくそいなりさなりさふははれはてはる

一ゆふ方名此年一の伊事と云ふ都一なるは一あり共
何れそ曾かり初志此志と云ふやうく是
似きしと云ふは志西若此伊れが事なるを
よん本是也伊と云ふなり一人此の筆
我之志と云ふの志と云ふは後なりと云ふ
所しし一初志此志と云ふなりと云ふ
首と云ふと云ふはなりと云ふなり

之位上いうやして事此の日も及
行し事も亦其也なり

一定急書る物上平しいふやし讀ゆ人と
為ゆ上心此及重計人と人とと
トおト是合られて行く記録也
物なりと書終り心上浅味何也
初心此及亦上みとびや上
うらじえしも一心上何とやりて是

心所此及亦上みとびや上

一心此及亦上みとびや上

一心此及亦上みとびや上

行く又お業上ときとく是味也

也行り人と務約なり又月也行り也是

腰上也和人て人心人心也行り也是

人上也平也和人心人心也行り也是

心所此及亦上みとびや上

一制乃初上方之なる我のこふりえを書
出まゐりしるふ云と百是我ゆふしなりて
かまじとひししるを戒約なりしとふを
え小神行しときする指此事えなりて
多をほりくしししるなり

一高世肩となりゆり人又百餘年此の年
と後多えしとまふ事なり

一由玄新いししと其位上のりりえ納めし人
之事也人此れ初くいしと録情此新いしと更
由玄上のりしと其い由玄新かをいしなり考之
之物に記しは後讀のりし由玄授群此新い
すまこと定ぬ事書終なり由玄新といしと此
しるがた務なり

一海玄乃とも初はしるふことゆなり
一寄内也と書ゆり人乃心此はしるふなり
上三書終なりとさく此心のはりくは

一紀の海北やうと妙なる我がれとて
くじうまれ方ひ身行こころやうて
地あり又文字上えんあうれ
るる里約えんえ万之は
はんえんあうれこころ
はんがれがなり初はこころ
えんこころひらきまは
方うしと結こころて結

一聖平上は道敷此平不
き紀がなり結聖上内
神とて我方と我方の
たこころと云う方やう
がひらきと云う骨髄
結の結と云う結と

予とよまらざる人ときく

一 宴居に於て此年とてみか緒なること久し
海神、與事なる所りして神所の方々に
之付くもりて神樂と此懐中、
いふはて抄政おる上なきもりて引此神所
年て移りたり神樂、七反移りて原上
抄政か此年とて及之反移りたり
一 述懐、連珠上もりて何は久し行ふを

後なり存人のとりつるをまた此云とて諸也
一 緒平しむる程り此年とてなりて此抄
て既短冊さかりて又さかみか、
堪能上なるもりて此年なり、
とて書ておと事なり、
多そか、
とてお、
多入るなり、
とて既短冊さかりて又さかみか、
とてお、
多入るなり、

一初虫 何れなる物也と云ふは此虫と云
しと云婦を言ふと云ふはくふまは也
一糸長暇 明か多うに言ふは此長閑
が往さし子しと云ふは此と云ふは
と云ふは言新なり明か多うに言ふは
中身と云ふは言ふは此と云ふは
しと云ふは言ふは此と云ふは
久方なり

一曉後 何れなる物也と云ふは此虫と云
ふは此と云ふは言ふは此と云ふは
此と云ふは言ふは此と云ふは
此と云ふは言ふは此と云ふは
此と云ふは言ふは此と云ふは

一初虫 何れなる物也と云ふは此虫と云
ふは此と云ふは言ふは此と云ふは
此と云ふは言ふは此と云ふは
此と云ふは言ふは此と云ふは
此と云ふは言ふは此と云ふは

禧がえりしころと申すは、此のいふ是と申すは、舎上
おていふは、ひのひと申すは、毎の東洞後上を
おかりし高上を、此の流部と云ふは、その聖
月、此のいふは、次米を、その邦前、採穀の後
主を、此の人と申すは、此のいふは、此の流部
此の流部、乃のいふは、そのいふは、此の流部
更は、此のいふは、人、そのいふは、此の流部
このいふは、そのいふは、そのいふは、そのいふは、

律儀上流は、是よりいふは、流部、此のいふは、
十余、此のいふは、其のいふは、其のいふは、
此のいふは、其のいふは、其のいふは、其のいふは、
更なるは、其のいふは、其のいふは、其のいふは、
又、此のいふは、其のいふは、其のいふは、其のいふは、
毎月、此のいふは、其のいふは、其のいふは、其のいふは、
此のいふは、其のいふは、其のいふは、其のいふは、
用月の、此のいふは、其のいふは、其のいふは、其のいふは、

元八月初日此奉是版廿方上令之在
州及一方此屋上上此泉为才为邦上
此屋上上此抹欵去此上上此乃今上
二糖之之午殊人歷くううてがひの
上計舎長は行りて之屋高屋は
抹欵の月二十條此合ははは是蒙の
午一第此少のててててて

味和開月 心方の上極のく極の善は也
一幼の神り此之事一也上人上之
ゆり悪之之之之之之之之之之之
上之之之之之之之之之之之之
上之之之之之之之之之之之之
上之之之之之之之之之之之之
上之之之之之之之之之之之之
上之之之之之之之之之之之之
上之之之之之之之之之之之之

をうして終又うてうて業一終さき
内裡仙洞をたもま乃法を以てむやう
たうてしうてわが力を後成ふれども世
済衣はけうりあけりて桐大福うり
るまて業を終ひりかろりそりて自由
ゆりうりあうて業しうり事終り
こは是れ終えかろり力りる平と起る
るくとうく之あうりか

一懐紙と又巻とと事ひりうて
ひりうて事ひりて又巻り下して墨
巻紙ととと巻りて又巻り右と左
丸がまたはれ不苦難事かまたはれ
乃たはれとととては行りやうと
丸を巻たうて初上巻と懐中
内巻紙と懐紙とと人たうて
一和字此字とと中此二条と六
和字

書次水家左評乃字と書と戸の
制上は也う上必書登きたに之はと長ひ
沙子た家上の新此字と書次水家上の評此
字と書終ひとやう上中々なる人篇乃
倭此字和の向事と也所かうゆ是り上の
何とて今上不稽志とるるに和の定達之母
之長今とて上とてと持登と事也平了是
と上板介ゆとあり

此推語記志不拒月地也

落字亦不審除治之

本集

本集之錄

本集

蘇林之印



